



呂大因 卷
911.2
1
0



60763



911.368

伊勢千句問書下

何田才

南無阿彌陀佛

おろそか月よりの舞枝あはれ

病もふ月の明白ふはせ

月よりの舞枝あはれ

のこりし後ノ料ニシテ

あかりしすのきと手ぬぐひ

まじりしむすのきと手ぬぐひ

いすはゆきふり

あかりのちあり

あかりのちあり

あかりのちあり

あかりのちあり

京氣かりわんなくひびき
くせいのあひふんてくる
新あり

川くもも葉たりのうすむじ
志とあ的事もさうしりさう
つりりなふ付たり

今ひのむのあつてく
よあつてくふつる新あり
まよのあつてくふつる新あり
年中、まよはりりくも入
あつてくふつる新あり
歳暮をうへあひく民のまよ
りむりりあひく新あり

あつてくふつる新あり
とくさくさくあり

あつてくふつる新あり
あつてくふつる新あり
あつてくふつる新あり

あつてくふつる新あり
あつてくふつる新あり

あつてくふつる新あり
あつてくふつる新あり
あつてくふつる新あり
あつてくふつる新あり
あつてくふつる新あり
あつてくふつる新あり
あつてくふつる新あり
あつてくふつる新あり
あつてくふつる新あり
あつてくふつる新あり

しるぬのすきいしすけのま
くさう新あり

枯ありきりぬる中の露は
云霞のまのト露はきよ
と建いぬ枯ありきりし

こまいぬまきと云霞の
手のしるぬのまきり
しるぬの麻のまきりし

しるぬの麻のまきりし
枯ありしるぬのまきり

しるぬのまきりしるぬの
まきりしるぬのまきり
しるぬのまきりしるぬの

しるぬのまきりしるぬの
麻のまきりしるぬの

しるぬのまきりしるぬの

しるぬのまきりしるぬの
しるぬのまきりしるぬの
しるぬのまきりしるぬの

しるぬのまきりしるぬの

しるぬのまきりしるぬの

しるぬのまきりしるぬの
しるぬのまきりしるぬの

しるぬのまきりしるぬの

しるぬのまきりしるぬの
しるぬのまきりしるぬの

いづれもあはれとてしるすは
まゝにいとまきくうらつりり
肉持持まのほめたりとまたり
しつりりりりりりりりりり
一針少を源氏のまこときつ
ひくせひあれふらうとた
しりりりりりりりりりりりり
肉持のこの新ふ
うきりりりりりりりりりり
美の原をはははははははは
我うらあはれははははははは
まゝにいとまきくうらつりり

ふふふふふふふふふふふ
の魂まゝくうらつりりりり
まゝにいとまきくうらつりり
吾等中の山隈我のまゝにすは
あり

いづれもあはれとてしるすは
市人きとまきくうらつりり
山市時山風のまゝにあり
まゝにいとまきくうらつりり
市にいとまきくうらつりり
又もとせうおとほのまゝにあり
日暮は江の江も空を移れ
水也く馬の二三をうらつりり

水也く馬の二三をうらつりり

あかりの神もなほ寝たりて
あかりの神もなほ寝たりて
あかりの神もなほ寝たりて
あかりの神もなほ寝たりて
あかりの神もなほ寝たりて
あかりの神もなほ寝たりて
あかりの神もなほ寝たりて
あかりの神もなほ寝たりて
あかりの神もなほ寝たりて
あかりの神もなほ寝たりて

あかりの神もなほ寝たりて
あかりの神もなほ寝たりて
あかりの神もなほ寝たりて
あかりの神もなほ寝たりて
あかりの神もなほ寝たりて
あかりの神もなほ寝たりて
あかりの神もなほ寝たりて
あかりの神もなほ寝たりて
あかりの神もなほ寝たりて
あかりの神もなほ寝たりて

物たるにふたりよりかえりてわき
 としあつて我よりまゝにわたりしを
 きりてかえりてかえりてわき
 きりてわきわきわきわきわき
 わきわきわきわきわきわき
 わきわきわきわきわきわき
 わきわきわきわきわきわき
 わきわきわきわきわきわき
 わきわきわきわきわきわき
 わきわきわきわきわきわき
 わきわきわきわきわきわき
 わきわきわきわきわきわき

浮勒世の事ふにあら
 う性のせがけのあきらさ
 浮勒世の事ふにあら
 性をせがけのあきらさ
 浮勒世の事ふにあら
 性をせがけのあきらさ
 浮勒世の事ふにあら
 性をせがけのあきらさ
 浮勒世の事ふにあら
 性をせがけのあきらさ
 浮勒世の事ふにあら
 性をせがけのあきらさ

わろ祈あり

ふしやふれはあまもはり
一句涙の事あり

家小河れきふり飯をきき

旅小河れ推の柴り

しん此神は海にまよりりや日

いふ心高位の人と旅りかあり

旅の情ありひたり

くは日しりのおくりたる人共

鷹ふりの事ふしり

考とつたけむりは瀬の流れは日

惟高親王きふり志強ふれ也

りい神んふれせきさげも



のこりまのなまきし新にけり

非といせりのこりのことをあり

新のうらむ川風うらむ日

ふは瀬川の事ふしり

見えをいふしうすむ水瀬川

あつは枯とふふながいるん

一ひのけらみ柳はるるをみ

川窟よりすも川にみ柳ふ

風のきり祈あり 池塘善平

茶葉りけりくもさけけうら長

ありりの白あり

つらき神にあはれとくむむれ

善の茶葉もくうら志あり

いふにわづらひしに
ついでにわづらひしに
ついでにわづらひしに

いふにわづらひしに
ついでにわづらひしに
ついでにわづらひしに

古何ノ詩七 和羊花

麻の鳴はきくやわら野の霧は記に
きくうきくははく大の作ん
しつりも所のみ也霧の流
まきくはくしつりくうらわら
麻のあはくしつり 源氏小
まきくはくはくしつり霧の流
まきくはくしつり霧の流
まきくはくしつり霧の流
まきくはくしつり霧の流
まきくはくしつり霧の流
まきくはくしつり霧の流
まきくはくしつり霧の流
まきくはくしつり霧の流
まきくはくしつり霧の流
まきくはくしつり霧の流

以作鳥子やうらむの結はくは
まきくはくしつり霧の流
まきくはくしつり霧の流

身ぶたふしよとねあか都人
 神にぬれまふとてうらひ
 都にまぬりたふしはまじり
 一とてあつはあまはしり
 ましつとつあまはまは
 かしつとつあまはまは
 一とてあつはあまは

まつとつあまはまは
 かしつとつあまはまは
 一とてあつはあまは

まつとつあまはまは
 かしつとつあまはまは
 一とてあつはあまは

書くつあまはまは
 冬にねのつあまはまは
 まつとつあまはまは
 まつとつあまはまは
 まつとつあまはまは
 まつとつあまはまは
 まつとつあまはまは
 まつとつあまはまは

まつとつあまはまは
 まつとつあまはまは
 まつとつあまはまは
 まつとつあまはまは
 まつとつあまはまは

ありふあふりくつたふらきぬ
 たの喜しゆりたふらきぬの
 家うの神山のいふ志はくも
 志あふらふむむふも
 けりあふれきもいふ喜の進古
 一りてまうらぬりの老つれ
 まりふりぬ命をたふ本陣
 一りあふらふり
 立列おふらふれくく日
 かしゆり喜のまうり
 いらふりばあといは
 志ははらふあふらふ
 喜しゆり

喜あふりくつたふらきぬ
 いらふりばあといは
 志ははらふあふらふ
 喜しゆり
 老のい我は進古
 いらふりをたふ
 知喜朋友の志ははらふ
 風うらふらふあふらふ
 志のいふらふらふらふ
 いらふり
 喜あふらふらふらふ
 いらふり

しく心算すよの年あけまぬが
 いせあふりふふふふかしくつり
 こくしりり惟高親王小野のた
 くの田宮山さくのみま一なり
 まを鏡うまききくはなやらん日
 ちくしるの妙の巻ふら井り
 うこましりりまをきしりり
 ちくしりり我まのら井のま鏡
 うりまきくまをうつくまえん
 まましりりふら井せま井り
 志しりりまのふら鏡まえん
 うらまきくまをらんまかり
 ままのまきくまをらんまかり

四枝古倉誰そよのまをり

神のまのまうはらすりち
 うけりまのまはらすりち
 うらまのまはらすりち
 神のまのまはらすりち
 うらまのまはらすりち

梅の花のまはらすりち

うらまのまはらすりち
 うらまのまはらすりち
 うらまのまはらすりち
 うらまのまはらすりち
 うらまのまはらすりち
 うらまのまはらすりち
 うらまのまはらすりち
 うらまのまはらすりち
 うらまのまはらすりち

世のつれなきはひあつらん
世のつれなきはひあつらん
世のつれなきはひあつらん
世のつれなきはひあつらん

福のつれなきはひあつらん
福のつれなきはひあつらん
福のつれなきはひあつらん
福のつれなきはひあつらん

世のつれなきはひあつらん
世のつれなきはひあつらん
世のつれなきはひあつらん
世のつれなきはひあつらん

山岡小治業の母は猿蓑
ひき神事り

ふふのいある残れあきむじ同
猿蓑のいありく速徳なり

たつらほのいありあきむじ同
親のい認めいひらきむじ同

いむじりいあきむじ同
三年又は改存とくふの

ひき

あきむじのいありあきむじ同
かちりあきむじのいありあきむじ同

いむじりいあきむじ同
あきむじのいありあきむじ同

あきむじのいありあきむじ同

いむじりいあきむじ同

あきむじのいありあきむじ同

あきむじのいありあきむじ同

あきむじのいありあきむじ同

あきむじのいありあきむじ同

あきむじのいありあきむじ同

中川ふらりふらりゆきあはれ
 けいねばねばあいのんきり
 なをきふかたきふくたのてき
 はひうちらぬあいのねはひらり
 寝ころひいけい言のそれ
 あらうきふらうきふらあはれひ日
 きたねえきりりたの神あり
 花をねらひて海あり
 昔の学あひとらえんきりり
 落葉のうもたうらてき原
 秋のこもるうらたひりり
 秋あきのこもるうらたひりりあき寺の
 月の秋のこもるうらたひりり

花のあまふらりりてき
 ふうらりりりりり
 花のあまふらりりりりり
 花のあまふらりりりりりり
 花のあまふらりりりりりりり
 花のあまふらりりりりりりり
 花のあまふらりりりりりりりり
 花のあまふらりりりりりりりりり
 花のあまふらりりりりりりりりりり
 花のあまふらりりりりりりりりりりり

これの原の書にこれ山月
よみ置まふふとあかり
あやしくふきつる事はわり
との原也よみ置まふとあかり
ゆりしつらあかりをきり
村のあやしくもあやむる
海のあやしくもあやむる
川にゆれあやむる事
尾花うす志のうすたすり日
うり目守あやむる尾花あやむ
たす村風あやむるあやむ
あやむるあやむるあやむる
あやむるあやむるあやむる
あやむるあやむるあやむる

うすあやむるあやむる
川にゆれあやむるあやむる
海のあやしくもあやむる
村のあやしくもあやむる
あやむるあやむるあやむる
あやむるあやむるあやむる
あやむるあやむるあやむる
あやむるあやむるあやむる
あやむるあやむるあやむる
あやむるあやむるあやむる
あやむるあやむるあやむる
あやむるあやむるあやむる

らりきりせむしむらじりきり

トたいの左まきり

山りの井さくの玉ねんまひ

たのうーりひふむせむあり

いふまきりてらちまのすん

ひーまきりてらちまのすん

まきりてらちまのすん

あまきりてらちまのすん

一ふいさの原さきてふら

まの花さるなりはるさる

物業花のまきりてらちま

まきりてらちまのすん

よも月ありそくはるむらり
よも月ありそくはるむらり
よも月ありそくはるむらり
よも月ありそくはるむらり
よも月ありそくはるむらり
よも月ありそくはるむらり
よも月ありそくはるむらり
よも月ありそくはるむらり
よも月ありそくはるむらり
よも月ありそくはるむらり

岩代も同じやちまたむすひ松本
岩代も同じやちまたむすひ松本
岩代も同じやちまたむすひ松本
岩代も同じやちまたむすひ松本
岩代も同じやちまたむすひ松本
岩代も同じやちまたむすひ松本
岩代も同じやちまたむすひ松本
岩代も同じやちまたむすひ松本
岩代も同じやちまたむすひ松本
岩代も同じやちまたむすひ松本

あまのついでにふくすむまのり
初書のついでに家の神あり
日くくして衣より神もすなり
衣家のついでに二万初書の
神にいきらぬに帰る上り
あまのついでに

あまのついでにふくすむまのり
初書のついでに家の神あり
日くくして衣より神もすなり
衣家のついでに二万初書の
神にいきらぬに帰る上り
あまのついでに

あまのついでにふくすむまのり
初書のついでに家の神あり
日くくして衣より神もすなり
衣家のついでに二万初書の
神にいきらぬに帰る上り
あまのついでに

いとくはむすもすのあは
くくはむすのあはむす
むすくはむすのあはむす
むすくはむすのあはむす
むすくはむすのあはむす
むすくはむすのあはむす
むすくはむすのあはむす
むすくはむすのあはむす
むすくはむすのあはむす
むすくはむすのあはむす

まはむすのあはむす
むすくはむすのあはむす
むすくはむすのあはむす
むすくはむすのあはむす
むすくはむすのあはむす
むすくはむすのあはむす

むすくはむすのあはむす
むすくはむすのあはむす
むすくはむすのあはむす
むすくはむすのあはむす
むすくはむすのあはむす
むすくはむすのあはむす
むすくはむすのあはむす
むすくはむすのあはむす
むすくはむすのあはむす
むすくはむすのあはむす

おのゝりはめしむるもあはれ
ししりくふりてあはれ
つとねのひせりもあはれ
おのゝりはめしむるもあはれ
ししりくふりてあはれ
つとねのひせりもあはれ
おのゝりはめしむるもあはれ
ししりくふりてあはれ
つとねのひせりもあはれ

何衣

そとくはもよおのりもあはれ
くまもいふもあはれ
物なりはあはれ
おのゝりはめしむるもあはれ
ししりくふりてあはれ
つとねのひせりもあはれ
おのゝりはめしむるもあはれ
ししりくふりてあはれ
つとねのひせりもあはれ

智波のり産の先々あふ
わを海よりふたのむきま也
みきいのしふたのひよりふか
まきくするまふらん

月を月まりの結成
しきりりりの心なりあつた
心月をとをゆり

りか尾龍好より江をさき
深ふをさるやふ付たり
風よりわはまらつゆり日

付和尾龍の神と向結しき也
るふくかひひりやと築てん
ねん人の元とまると風をとる

よし人我ふすすいれ
なまきあり

まふふありいこふ出守回
けき本の巻ふをふかひま
中終しきいへちりあり
女の海よりいひふか
いふふふふふ我ふふ
ふふふふふふふふふふ
あふふふふふふふふふ
あふふふふふふふふ

あふふふの我ふふふふふ
しつふふふふふふふふ
うふふふふふふふふふ

くしんがく(か)い(ま)の(い)ま(る)に
ま(あ)く(い)る(ま)あ(り)
ま(あ)の(い)り(ま)あ(は)る(花)ら(あ)る(者)
く(し)ん(が)く(い)る(ま)あ(り)
ま(あ)の(い)り(ま)あ(は)る(花)ら(あ)る(者)
ま(あ)の(い)り(ま)あ(は)る(花)ら(あ)る(者)
ま(あ)の(い)り(ま)あ(は)る(花)ら(あ)る(者)
ま(あ)の(い)り(ま)あ(は)る(花)ら(あ)る(者)
ま(あ)の(い)り(ま)あ(は)る(花)ら(あ)る(者)
ま(あ)の(い)り(ま)あ(は)る(花)ら(あ)る(者)
ま(あ)の(い)り(ま)あ(は)る(花)ら(あ)る(者)
ま(あ)の(い)り(ま)あ(は)る(花)ら(あ)る(者)

あ(あ)の(い)り(ま)あ(は)る(花)ら(あ)る(者)
あ(あ)の(い)り(ま)あ(は)る(花)ら(あ)る(者)

いづれにやうにせんか
亦うらやまふ事よめ思ふく日
来ふきこり亦どうも
今しよの神事なり
枝あり好まきまきおしむに
詠人なまはまき一くおと
おとらう一あり

いづれにやうにせんか
いづれにやうにせんか
いづれにやうにせんか
いづれにやうにせんか
いづれにやうにせんか
いづれにやうにせんか
いづれにやうにせんか
いづれにやうにせんか
いづれにやうにせんか
いづれにやうにせんか

いづれにやうにせんか
いづれにやうにせんか
いづれにやうにせんか
いづれにやうにせんか
いづれにやうにせんか
いづれにやうにせんか
いづれにやうにせんか
いづれにやうにせんか
いづれにやうにせんか
いづれにやうにせんか

いぬいしやうの巻に
行ふのまき巻うらと源氏
のすまふりぢぢぢぢぢ
しぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ

あはれはけのいぢぢぢぢぢぢぢ
殿井のまきまふりぢぢぢぢぢ
左下りぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
まぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
まぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ

いぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
光陰のまきまふりぢぢぢぢぢ

まぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
まぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
まぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
まぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
まぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
まぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
まぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ

まぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
まぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
まぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
まぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
まぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
まぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
まぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ

もむらうのやうなるものなりしを
なむらうのやうなるものなりしを
しむらうのやうなるものなりしを
気くものやうなるものなりしを
付かざるものなりしを何の
不飛にあらざるものなりしを
しむらうのやうなるものなりしを
秋のふらうなるものなりしを
しむらうのやうなるものなりしを
むらうのやうなるものなりしを
むらうのやうなるものなりしを
むらうのやうなるものなりしを
むらうのやうなるものなりしを
むらうのやうなるものなりしを

むらうのやうなるものなりしを
むらうのやうなるものなりしを
むらうのやうなるものなりしを
むらうのやうなるものなりしを
むらうのやうなるものなりしを
むらうのやうなるものなりしを
むらうのやうなるものなりしを
むらうのやうなるものなりしを
むらうのやうなるものなりしを
むらうのやうなるものなりしを
むらうのやうなるものなりしを
むらうのやうなるものなりしを
むらうのやうなるものなりしを
むらうのやうなるものなりしを
むらうのやうなるものなりしを
むらうのやうなるものなりしを

醉北溟灑春盃中よめをせ
けりるうきく心行くきき
大経いさくくしてけりる

~~~~~しりり酒家管弦あり

国ちりしつらふ枝の風を

けりるふ枝の風をけりる

小支枝の風をけりる

けりるふ枝の風をけりる

~~~~~しりり酒家管弦あり

~~~~~しりり酒家管弦あり

しりり酒家管弦あり

枝の風をけりる

~~~~~しりり酒家管弦あり

おのゝ人かんとくありて
おまゝのまゝはねあつり長
中よりまゝのまゝ一葉も
おふりてあつり終
つ清くおまゝを
おのゝ人かんとくありて
おまゝのまゝはねあつり長
中よりまゝのまゝ一葉も
おふりてあつり終
つ清くおまゝを

おのゝ人かんとくありて
おまゝのまゝはねあつり長
中よりまゝのまゝ一葉も
おふりてあつり終
つ清くおまゝを

おのゝ人かんとくありて
おまゝのまゝはねあつり長
中よりまゝのまゝ一葉も
おふりてあつり終
つ清くおまゝを

さひき祈あり

風りひくや木玉ふきむじ日

さひき思のたまふなり

思の松しむくふきまそ日

松のひきむけあしり思入

のねのりちまふあしり

あしりきつらふらふあしり

くねそふきまふあしり

まのうあき残り松し祈し

あしりあしりあしりあしり

初きの葉か何りまの祈也

葉しつらひしつらあふくむじ日

物まのちのり井くくあま

あしりあしり

あしりあしりあしりあしり

あしりの事ふくむ

あしりあしりあしりあしり

残りあしりあしりあしり

あしりあしり

あしりあしりあしりあしり

あしりあしりあしりあしり

あしりあしりあしりあしり

あしりあしりあしりあしり

あしりあしりあしりあしり

あしりあしりあしりあしり

あしりあしりあしりあしり

あしりあしりあしりあしり

山何一十九

月あらしきよふ月あらし朝の音に
何れあらしの音あらしきよふの
夕やけちよとちよあらしの音あらし
と朝の音あらしきよふの音あらし
夕やけちよとちよあらし

月あらしきよふ月あらし朝の音に
何れあらしの音あらしきよふの

夕やけちよとちよあらしの音あらし
夕やけちよとちよあらし

一付しり

源子安の風を筆以てしり

松小月鏡りまはしり

松小月鏡りまはしり

松小月鏡りまはしり

山何一十九

山何一十九

山何一十九

山何一十九

山何一十九

山何一十九

山何一十九

山何一十九

山何一十九

史の素小野経しつる事也
 杖の野小野経しつる事也
 しつる事也
 史の素小野経しつる事也
 杖の野小野経しつる事也
 しつる事也
 史の素小野経しつる事也
 杖の野小野経しつる事也
 しつる事也

史の素小野経しつる事也
 杖の野小野経しつる事也
 しつる事也
 史の素小野経しつる事也
 杖の野小野経しつる事也
 しつる事也
 史の素小野経しつる事也
 杖の野小野経しつる事也
 しつる事也

花の葉ふもはなはたあはれなるに
とよみしはなはたあはれなるに
さしとよみしはなはたあはれなるに
さしとよみしはなはたあはれなるに
さしとよみしはなはたあはれなるに
さしとよみしはなはたあはれなるに
さしとよみしはなはたあはれなるに
さしとよみしはなはたあはれなるに
さしとよみしはなはたあはれなるに
さしとよみしはなはたあはれなるに

さしとよみしはなはたあはれなるに
さしとよみしはなはたあはれなるに
さしとよみしはなはたあはれなるに
さしとよみしはなはたあはれなるに
さしとよみしはなはたあはれなるに
さしとよみしはなはたあはれなるに
さしとよみしはなはたあはれなるに
さしとよみしはなはたあはれなるに
さしとよみしはなはたあはれなるに
さしとよみしはなはたあはれなるに

風ふすきま付たり

まをれしあはにまねねし

しよふゆししとゆまふ

おのり野のうらまのうら

あはすまふすたりすけ

ま根ふまく白ふり

おしすきしり見のうら

うらまふゆまを付たり

まのうまりり積る

あしりしゆりすすしり

うすやまふ白龍やふ

きしきくまのまほし

ふまのうすくまは

ふまは

ふまはまふは

物なま神のまやま

まのまのまのまの

まのまのまのまの

神

まのまのまのまの

まのまのまの

まのまのまのまの

まのまのまの

まのまのまの

まのまのまの

まのまのまの

君の聖代りり外なる事候は
ふら川世と相おる君よいとある
十年の事よすしと相つて
生れおつるよと相いふるよと
相いふるよと相いふるよと
またよと相いふるよと

相いふるよと相いふるよと
相いふるよと相いふるよと
相いふるよと相いふるよと
相いふるよと相いふるよと
相いふるよと相いふるよと
相いふるよと相いふるよと
相いふるよと相いふるよと
相いふるよと相いふるよと

万の事よと相いふるよと
あつたよと相いふるよと
空の事よと相いふるよと
空の事よと相いふるよと
空の事よと相いふるよと
空の事よと相いふるよと
空の事よと相いふるよと
空の事よと相いふるよと

松井の事よと相いふるよと
松井の事よと相いふるよと
松井の事よと相いふるよと
松井の事よと相いふるよと
松井の事よと相いふるよと
松井の事よと相いふるよと
松井の事よと相いふるよと
松井の事よと相いふるよと

嬰一運くふくのみ事を
くくくくくくくく

何れかう念に何れか
ひひひひひひひひひひ

を人ふふふふふふふふ

を人ふふふふふふふふ

を人ふふふふふふふふ

を人ふふふふふふふふ

物との世中のみさきん

薄もあはれにせむかたわらふかたふ
あし落着きあつてしる

くつあつらひのつらさのなま川に
あふれし水もあつらひのさびしき

花あはれおのの花とまきいし
くましといふ花やうんさ
あめの花はらう物あれなり
小蝶ふかき花はなまきいし
海らうまきとるくまうまは
まのうのううまきあれ七
小蝶ふかき花のうまきいし
のうまきいしあめとらう
——奇ふりしうまきいし
この花のうまきいし
ま

この年をいへいあめとらうまきいし
と母の国のまきいしあめとらう

流らんまきいしあめとらう
あめとらうまきいしあめとらう
あめとらうまきいしあめとらう
あめとらうまきいしあめとらう
あめとらうまきいしあめとらう

あめとらうまきいしあめとらう
あめとらうまきいしあめとらう
あめとらうまきいしあめとらう
あめとらうまきいしあめとらう
あめとらうまきいしあめとらう

あめとらうまきいしあめとらう
あめとらうまきいしあめとらう
あめとらうまきいしあめとらう
あめとらうまきいしあめとらう
あめとらうまきいしあめとらう
あめとらうまきいしあめとらう
あめとらうまきいしあめとらう
あめとらうまきいしあめとらう

あめとらうまきいしあめとらう
あめとらうまきいしあめとらう
あめとらうまきいしあめとらう
あめとらうまきいしあめとらう
あめとらうまきいしあめとらう
あめとらうまきいしあめとらう
あめとらうまきいしあめとらう
あめとらうまきいしあめとらう

河原の原に花をばらけしはあまの
 庭に花をばらけしはあまの
 庭に花をばらけしはあまの

福の心は花の心は花の心は花の心は
 花の心は花の心は花の心は花の心は
 花の心は花の心は花の心は花の心は

花の心は花の心は花の心は花の心は
 花の心は花の心は花の心は花の心は
 花の心は花の心は花の心は花の心は
 花の心は花の心は花の心は花の心は
 花の心は花の心は花の心は花の心は
 花の心は花の心は花の心は花の心は
 花の心は花の心は花の心は花の心は
 花の心は花の心は花の心は花の心は
 花の心は花の心は花の心は花の心は
 花の心は花の心は花の心は花の心は
 花の心は花の心は花の心は花の心は
 花の心は花の心は花の心は花の心は

あつたしうしとあつたしうすり
まゝにねならんしんまふさんん
柳ぶふくくくすふり
うまうまうしうくくくり
しんまうくくくくくくく
あつたしうあつたしう
まゝにねならんしんまふさんん
うまうまうしうくくくり
あつたしうあつたしう
あつたしうあつたしう

昔のまをくすくす
あつたしうあつたしう
あつたしうあつたしう

り人まきつらな殿の目くらまの日
あつたおろろの神也
いづの旁のわが牛川の麻のよもぎ
麻のよもぎをとらうやう也
紅のよもぎのちよき野のよもぎの日
ひまわりのお將のねのねの葉
よもぎたつていふはしはしは
——のねのひろひのよもぎの麻の
いづのねのよもぎのよもぎ
あつたおろろの神也
いづのねのよもぎのよもぎ
すまのよもぎのねのよもぎ
あつたおろろの神也
いづのねのよもぎのよもぎ
あつたおろろの神也
いづのねのよもぎのよもぎ
あつたおろろの神也
いづのねのよもぎのよもぎ
あつたおろろの神也

いふ言ふも神のまじり
たつらほよの肉身清い徳の
まじりあふあふ結ひし
こゝろあまのまじりけし

こゝろあまのまじりけし
たつらほよの肉身清い徳の
まじりあふあふ結ひし
こゝろあまのまじりけし

あしはらふまじりけし
たつらほよの肉身清い徳の
まじりあふあふ結ひし
こゝろあまのまじりけし

あふのうらみあはれは
わがこころにあらはれ
しうらみあはれは
あふのうらみあはれ
あふのうらみあはれ
あふのうらみあはれ
あふのうらみあはれ

あふのうらみあはれは
あふのうらみあはれは
あふのうらみあはれは
あふのうらみあはれは
あふのうらみあはれは
あふのうらみあはれは
あふのうらみあはれは

あふのうらみあはれは
あふのうらみあはれは
あふのうらみあはれは
あふのうらみあはれは
あふのうらみあはれは
あふのうらみあはれは
あふのうらみあはれは
あふのうらみあはれは
あふのうらみあはれは
あふのうらみあはれは
あふのうらみあはれは
あふのうらみあはれは
あふのうらみあはれは
あふのうらみあはれは
あふのうらみあはれは

さし下し舞下りてはあはれはあはれ
あはれはあはれはあはれはあはれ
あはれはあはれはあはれはあはれ
あはれはあはれはあはれはあはれ
あはれはあはれはあはれはあはれ
あはれはあはれはあはれはあはれ
あはれはあはれはあはれはあはれ
あはれはあはれはあはれはあはれ
あはれはあはれはあはれはあはれ
あはれはあはれはあはれはあはれ

あはれはあはれはあはれはあはれ
あはれはあはれはあはれはあはれ
あはれはあはれはあはれはあはれ
あはれはあはれはあはれはあはれ
あはれはあはれはあはれはあはれ
あはれはあはれはあはれはあはれ
あはれはあはれはあはれはあはれ
あはれはあはれはあはれはあはれ
あはれはあはれはあはれはあはれ
あはれはあはれはあはれはあはれ

あはれはあはれはあはれはあはれ
あはれはあはれはあはれはあはれ
あはれはあはれはあはれはあはれ
あはれはあはれはあはれはあはれ
あはれはあはれはあはれはあはれ
あはれはあはれはあはれはあはれ
あはれはあはれはあはれはあはれ
あはれはあはれはあはれはあはれ
あはれはあはれはあはれはあはれ
あはれはあはれはあはれはあはれ

まきしん年事なるはあなり乃
しん年事なるはあなり乃
浦しん浦しん年事なるはあなり乃
流率と鉄ひしん年事なるはあなり乃
しん年事なるはあなり乃

浦しん年事なるはあなり乃
しん年事なるはあなり乃
しん年事なるはあなり乃
しん年事なるはあなり乃
しん年事なるはあなり乃

浦しん年事なるはあなり乃
しん年事なるはあなり乃
しん年事なるはあなり乃
しん年事なるはあなり乃
しん年事なるはあなり乃
しん年事なるはあなり乃
しん年事なるはあなり乃
しん年事なるはあなり乃
しん年事なるはあなり乃
しん年事なるはあなり乃

野分のしらべのうらみは
野分のしらべのうらみは
野分のしらべのうらみは

久くともいひながら
のまきのまきふじ
ふらふらとせむ

のまきのまきふじ
のまきのまきふじ
のまきのまきふじ

ねんねんねんねんねんねんねん
ねんねんねんねんねんねんねん
ねんねんねんねんねんねんねん

ねんねんねんねんねんねんねん
ねんねんねんねんねんねんねん
ねんねんねんねんねんねんねん

ねんねんねんねんねんねんねん
ねんねんねんねんねんねんねん
ねんねんねんねんねんねんねん

ねんねんねんねんねんねんねん
ねんねんねんねんねんねんねん
ねんねんねんねんねんねんねん

ねんねんねんねんねんねんねん

ねんねんねんねんねんねんねん
ねんねんねんねんねんねんねん
ねんねんねんねんねんねんねん

ねんねんねんねんねんねんねん
ねんねんねんねんねんねんねん
ねんねんねんねんねんねんねん

ねんねんねんねんねんねんねん
ねんねんねんねんねんねんねん
ねんねんねんねんねんねんねん

ねんねんねんねんねんねんねん
ねんねんねんねんねんねんねん
ねんねんねんねんねんねんねん

ねんねんねんねんねんねんねん
ねんねんねんねんねんねんねん
ねんねんねんねんねんねんねん

Handwritten Japanese text in a cursive style (sōsho), spanning two pages. The text is written vertically from right to left on each page. The characters are fluid and connected, characteristic of the cursive hand. The ink is dark and the paper shows signs of age.

一ひのねふ其のねもあは
ひくすしよとてのゆゑ
残りたりしをふりて後を
あ

聴雷一石

宗元平十

宗長平九





